

第10期中野区健康福祉審議会 スポーツ・健康づくり部会(第2回)

開催日 令和5年6月6日(火)午後7:00～午後8:40

開催場所 中野区役所 第8会議室(7階)

出席者

1. スポーツ・健康づくり部会委員

出席者 武藤 芳照、野口 律奈、櫻井 英一、川村 洋介、濱本 敏典、阿部 美佳
竹之内 勝、上岡 広治、藤原 幸孝

2. 事務局

健康福祉部 福祉推進課長 中谷 博
健康福祉部 スポーツ振興課長 鈴木 康平
健康福祉部 保健企画課長 中村 誠

【議事】

○武藤部会長

それでは、定刻になりましたので、野口副部会長が若干遅れるということで、よろしくお願ひします。

それでは、第2回スポーツ・健康づくり部会を開催させていただきます。

改めましてこんばんは。よろしくお願ひします。

本日、議題が4つございまして、そこにございますように「健康福祉に関する意識調査」の実施結果、「中野区地域福祉計画」の進捗、そして「中野区スポーツ・健康づくり推進計画」、「区のスポーツ振興施策」の4点です。

まず、鈴木課長のほうから前段の事務手続について、あるいは資料の確認などについてのお話をいただきます。

○鈴木スポーツ振興課長

それでは、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。スポーツ振興課長の鈴木よりご案内させていただきます。

まず、本日の会議ですが、委員9名のうち半数以上のご出席いただいておりますので、会議は成立しております。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきます。

事前にお送りさせていただいた次第の裏面にも資料一覧とございますけれども、右肩に資料番号を振ってございますので、そちらをご覧いただきながら、ご確認いただければと思います。

まず、資料1、「令和4年度(2022年度)『健康福祉に関する意識調査』の実施結果について」。

資料2、同じく、「令和4年度(2022年度)『中野区地域福祉計画』の進捗状況について」。これは1枚ものです。

その後、資料の2-1、こちらホチキスどめになっておりまして、「『中野区地域福祉計画』進捗状況」。

資料3、「令和4年度(2022年度)『中野区スポーツ・健康づくり推進計画』の進捗状況について」。

資料3-1、ホチキスどめになっております「『中野区スポーツ・健康づくり推進計画』の進捗状

況」。

資料4、「区のスポーツ振興施策について」。

それから資料4-1、「中野区の主要な体育・スポーツ組織・団体について」といったものをお配りさせていただいております。

また、郵送した資料以外で本日ご持参をお願いしておりました資料は、こちらのオレンジ色の中野区地域福祉計画・成年後見制度利用促進計画・スポーツ・健康づくり推進計画の冊子です。また、この青色の健康福祉部事業概要。こちらをご持参いただくという形をお願いをさせていただいております。

以上が、配付資料の確認でございます。

また、本日、机の上にお配りさせていただきました資料として、当日配付資料1と書いてあります正誤表、大変申し訳ありません、事前にお送りした資料3-1と資料4のところで誤りがありましたので、一番右側の正しい「正」の数値に訂正をさせていただければと思っております。

それから、当日配付資料の正誤表の下にありますのは、スクールトレーナー制度についての報道記事とそれに伴う資料という形で配付をさせていただいております。

以上が本日の資料でございますが、不足されてらっしゃる方、いらっしゃいますでしょうか。

○武藤部会長

よろしいでしょうか。説明はそれで大丈夫ですか。

1、2は連続して説明をいただいて、その後、質疑応答、ご意見を伺おうという段取りにさせていただきますので、中谷課長のほうからどうぞ。

○中谷福祉推進課長

中野区の福祉推進課長の中谷です。よろしく申し上げます。

議題の(1)、(2)について、資料に沿ってご説明をしたいと思います。

まず、資料1をご覧ください。「令和4年度(2022年度)『健康福祉に関する意識調査』の実施結果について」というものですが、この調査は、健康福祉施策などに係る区民などの実態とニーズを把握して、今後の見直しや改善、目標の達成度を測る指標として活用するとともに、地域福祉計画などの検討に資することを目的として実施をいたしました。調査対象者は、18歳以上の区民の方で、調査標本数は3,000人に配ったところ、32.7%の回収率で、有効回収数は980人となりました。調査期間は、昨年、令和4年の9月20日から10月11日です。新型コロナウイルスの感染状況は比較的落ち着いた時期ではありますが、また、発生届のやり方が見直された時期ではあるのですけれども、とはいえ、7月、8月の感染が非常に拡大していた時期の余韻をまだ引きずっていて、社会情勢的にはコロナ禍の中にある、今とはちょっと少し違う状況下だったのかなと受け止めております。

調査方法としましては、郵送とインターネットの併用で回収をしています。

調査結果のうち、特に前回の調査と比較をして変化が大きかった項目を4つピックアップしてございます。ネガティブなものばかりでちょっと残念な結果ではあるのですが、このスポーツ・健康づくり部会に特に関係の深いものは4つ目のものです。「健康状態については、『健康でない』または『どちらかといえば健康でない』が80歳代で33.3%と前回調査時より10.3ポイント増加」という状況でございました。

ちょっとこの黄土色の報告書の冊子をご覧ください、幾つかピックアップしながら補足といいますかご紹介したいと思います。先ほどの意識調査結果の資料1だとちょっと項目が少な過ぎるので、補足させていただきたいと思っております。

48ページをご覧ください。健康状態を聞いているのですけれども、「健康である」が35.5%と「どちらかといえば健康である」が46.4%で、合計すると81.9%で、健康であると感じている割合がその程度ということで、そんなに低くもないのかなと思っております。

右側の49ページをご覧くださいと、経年比較で、世代別の推移が折れ線グラフになっています。ちょっと着目したのは、前回から比べて、真ん中あたりのバツの50代、それから白いひし形の60代は、前回から見て改善傾向というか右側に上がっていて、その他の世代は下がっているという状況。特に黒い三角の40代、それから一番下の白い三角の80代は、顕著に減少傾向が見られるという状況でした。

1ページおめくりいただいて、1回に30分以上の連続した運動や身体活動を週1、2回以上行っていますかという問いに対して、「継続的に行っている」「ときどき行っている」と答えた方が合計で57.1%。5割台後半は、1回30分以上の運動を週に1、2回以上やっていると。割といい数字なのかと思います。右側を見ると、若干「継続的に行っている」というのは改善していて、過去5年間の中では、一番パーセンテージが高い状況になっています。

1ページおめくりいただいて、52ページ左側をご覧くださいと、運動・スポーツを1年以上継続している人が6割台後半で割と多めなのかと、68.7%いらっしゃるということです。

もう1ページおめくりいただいて54ページをご覧くださいと、運動・スポーツを行う場所があります。遊歩道が26.1%で1位。恐らくジョギングとかウォーキングをされている方が多いのかと思います。次いで2位が、民間スポーツクラブ22.9%。公園、区有施設となっていて、民間スポーツクラブのほうが区有施設よりも大きな指標を示しているというところが見受けられました。

それから、1枚おめくりいただいて56ページを見ていただくと、経年比較すると、「その他」、一番下の部分が増加していて、主に自宅でスポーツする方が増えている傾向があります。コロナ禍の中で、自宅で運動・トレーニングする方が増えたのかと見受けられます。

それから、隣の57ページ。運動・スポーツを行わない理由なのですけれども、「時間がないから」という方が2割台後半で一番多い理由となっています。なので、何か啓発するならば、短時間でできるメニューなどを案内するといったのかと思います。

ちょっと間が空いて、62ページをご覧ください。区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことなのですけれども、1位は「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大など施設の利便性の向上」で24.4%なのですけれども、その下3つが、対象は異なるのですけど、それぞれ「スポーツ行事の充実」が上位にランキングされているというところが見受けられます。

それから、ちょっと飛びまして74ページをご覧ください。生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますかという問いに対して、「いつも気をつけて実践している」もしくは「気をつけて実践している」を合計すると65.4%というような状況でした。

それから、少し飛んで85ページをご覧ください。健康診断を受けなかった理由についての設問なのですけれども、1位は「面倒だから」なのですが、上から2個目、「費用がかかるから」が27.6%。それから3個目は「時間がない」が26.7%いて、費用がかかるから受けないという方が27.6%いらっしゃるの、ここは何か利用助成みたいなことをすれば、逆にこういうことが期待できる層も一定いるのかと見受けられました。

それから91ページをご覧ください。ちょっと話が変わって、この1年間で歯科健診を受けましたかという問いに対して「受けた」という方は58.6%です。高いというか低いというかという感じですが、

1枚おめくりいただいて、93ページをご覧ください。歯科健診を受診しなかった理由なのですけど、1位が30.7%「時間がないから」なのですが、こちら上から4つ目、「費用がかかるから」が17.6%。その下、「歯科健診を行っていることを知らなかったから」という方が11.8%いらっしゃるの、周知や経費の助成などの取組で、一定の割合の方は受診が期待できる場所もいらっしゃるのかと思います。

それから、94ページをお開きください。定期的にメンテナンスのために歯科医に通っている方は5割台前半ということで、まあまあいらっしゃるのかという感じですが。

ちょっと飛んで99ページをご覧ください。自宅のある地域で救急患者が出た場合に、症状に応

じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますかという設題で、「整っていると思う」が20.9%、「ほぼ整っていると思う」が56.9%で、合わせて77.8%で、割と高い状況です。

次の101ページも、医療、介護サービスや地域の見守りなどの環境が整っていると思っている方は約6割いらっしゃるというところです。

ちょっと飛びまして113ページをご覧ください。今後必要な自殺対策についてなのですが、1位は「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が57%。「子どもの自殺予防」が44%となっております。

ちょっと飛んで122ページをご覧ください。たばこ関連です。たばこを吸っている方は、1割台半ば。「毎日吸っている」方が13.8%。「ときどき吸う日がある」という方が1.3%で合わせて15.1%となっています。一方、「吸わない」方は75.5%。「以前は吸っていたが1か月以上吸っていない」方が7.1%いらっしゃって、合計で82.6%の方は吸っていないということです。

右側のページをご覧ください。吸っている方の中で、今後禁煙したいと考えているかという問いに対して、「禁煙したい」という方は18.9%。「吸う本数を減らしたい」方が34.5%。合わせて53.4%の方が禁煙を考えていると。割と高めな数字かなと思われました。

それから、最後に143ページをご覧ください。自由意見なのですが、143ページの上から2つ目の四角、「医療・健診(検診)について」の意見で3つ中ポチあります。ご紹介しますと、「区でできる健康診断を増やして欲しい」というご意見。それから、2つ目が、「がん検診のクーポンが使いにくい。新型コロナのワクチンのようにインターネットでも事前予約ができればありがたい」というご意見がありました。3つ目が、「癌等で長期療養、治療を継続し、60才や途中で、それ以上仕事を続ける状況にない人も多いはず。後者の方で前向きに生活できる支援、啓蒙が不足しているようにも感じる」というご意見でした。

一番下の四角、「健康づくり・スポーツ施設や公園等について」、4つ意見がありまして、1つ目が、「安心してウォーキングできる環境を街路に設置して欲しいです。歩道の幅も必要でしょうか。暮らしの保健室の様な、気軽に相談出来る場所作りの支援をして欲しい」というご意見です。それから、「スポーツ施設、特に屋外のグラウンドが持つ機材や設備が場所によって差が大きいので、その差をなくしてほしい」というご意見がありました。3つ目が、「こどもの運動不足が気になります。こどもが運動できる施設やイベント教室を増やしてほしい。小学校の放課後にスポーツ教室やイベント、体育館開放など学校で開催してほしい」というご意見です。最後が、「平和の森公園の多目的広場の利用に関して、地域の中学校の部活などに使わせてあげるべきだと思います。中学校のグラウンドが狭かったり、他の部活で使えなかったりするので特に、サッカー、野球に関しては場所が少なすぎる。区内にもっと簡単に使える施設を作るべき」というご意見がありました。

調査についての報告は以上です。

それから、引き続き、地域福祉計画の進捗状況についてご説明をしたいと思います。

まずは、資料2をご覧ください。A4ペラ紙1枚のものです。

地域福祉計画の計画期間は、令和3年度から7年度の5年間なのですが、進捗管理のために、主な取組の進捗状況について、所管による自己評価を行いました。3段階評価で、○、△、×の基準で評価をしたところ、8つの施策ごとにやったのですが、ほとんどの取組が○で、「予定通り実施、または、予定を変更して実施した」ことが確認できました。1点、道路のバリアフリー化について、事業の調整に時間を要するということから計画どおり取り組んだ場合よりも効果が低かったということで、「予定を変更して実施した」の△が1点ついているという状況です。

粛々とではあるのですが、地域福祉計画の進捗状況、着実に進めていることは確認できるかなと思います。ただ、これだけだと少し、審議会でご審議いただくには、ちょっとネタ的に不十分なのかなと思うので、もう1個の資料2-1のほうをご覧くださいながら、特にこの部会に関係ある部分を幾つかピックアップしてご紹介していきたいと思っております。

10ページ目をご覧ください。施策の3番「健康・生きがいをづくりと予防」のページです。

主な取組として、「スポーツを通じたコミュニティの形成」とありますが、特に右側の「今後の課

題」の部分に着目しながら、ちょっとご紹介したいと思います。

1個目の項目が、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、日常的に健康づくりに取り組むことができるコミュニティの形成の推進という項目なのですが、今後は、スポーツの機会を増やして健康づくりにつながるように、誰でも参加できる活動の場を広げていく必要があるとされています。2個目が、運動やスポーツに苦手意識のある方も取り組めるようなプログラムの提供についてなのですが、今後の課題としては、スポーツへの関心や興味を高めるために、企業などと連携をしてスポーツの魅力を伝えていく必要があるとしています。3個目、区民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブについてなのですが、今後の課題としましては、スポーツ活動団体の活動を支援しながら、イベントなど活動を活発化させていく必要があるとしております。

12ページをご覧ください。「食育の推進」についてです。栄養バランスのとれた食事の大切さや健康的な食習慣、歯と口腔のケアなどの普及啓発を進めるという項目なのですが、今後の課題としましては、リーフレットを活用した健康的な食習慣などの普及に向けた区民向けの講座を実施予定というところ。もう1つは、健康づくりや食育の普及啓発の取組などに必要な情報発信や各給食施設の状況に応じた指導助言や相談支援を必要に応じてやっていくということです。最後に、区民の需要に応じて、新たに離乳食講習会完了期コースを展開していくということで、そのための情報発信の仕方についても検討していく必要があるとされています。

次の行が、健康的な食生活ができる環境づくりの推進についてなのですが、今後の課題としましては、引き続き他自治体の取組や食生活関連の事業者へのヒアリングを行って、自然と健康的な食生活を送りやすい環境づくりの実施方法を検討することとしております。

その次に、「健康的な生活習慣の定着支援と介護予防に取り組む意識の醸成」の項目です。望ましい生活習慣の定着に向けて、健康づくりや熱中症対策などの健康意識の啓発を進めるという項目ですが、今後の課題としまして、引き続きホームページなどでの普及啓発を行っていくとともに、健康づくり事業や講習会などの実施について検討していくこととしております。

次の13ページの一番上の行をご覧ください。心の悩みのある区民に対する相談支援と、心の健康づくりの取組の推進についてです。課題として、メンタルヘルスに関する正しい知識の普及啓発に取り組んでいく。また、多面的なアプローチを行って、当事者や家族及び支援関係者の理解や制度活用などを促進することとしております。

一番最後に、ちょっと飛んで28ページをご覧ください。心の健康絡みですが、一番下の行です。「自殺を未然に防ぐ体制の整備」ということで、普及啓発とゲートキーパー研修による人材育成強化の項目です。今後の課題としましては、若年層の特性に合わせた支援の強化と実際の自殺者数が多い勤労者をターゲットとした普及啓発機会の確保を検討しているとされています。

駆け足になりましたが、ご説明は以上です。

今後、次の計画にどんな内容を盛り込んでいくべきか、また、そこにつながるような、現在の課題、足りない部分といった点についてご意見をいただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○武藤部会長

ありがとうございました。

ただいまの議題の「『健康福祉に関する意識調査』の実施結果について」、「『中野区地域福祉計画』の進捗状況について」、どちらでも結構ですのでご自由にご発言いただければありがたいです。

会議終了までに、せっかくご参加をいただいたので、各委員には1回はご発言いただくと大変ありがたいと思っておりますので、よろしくご協力いただければと思います。いかがでしょうか。どなたでも結構です。

コロナの影響だろうと思うのですが、2020年度から2022年度にかけて高齢者を中心とした80代の方が、健康感がかなり低下をしているのが顕著に現れていて、60代以外は皆さん健康でないと思っている割合が高くなっているように思いますが、かなり各年代ともダメージを受けている結果だと伺いました。

何かございますでしょうか。上岡委員、どうぞ。

○上岡委員

どうも説明ありがとうございました。非常にボリュームがあって答えるのが大変だったなと思っています。

私もアンケートは結構、昔よくやっていたので感じるのですが、このアンケートから施策を検討するために使うのか、あるいは施策検討があって、アンケートを援用するのかというのでかなり使い方が違うと思うのです。何を言いたいかというと、このアンケートのサンプリング、1,000ですよ。95%の信頼性で3%の誤差があるのです。気になったのが、成果目標で、「30分以上の連続した運動を1週間に1回以上行っている区民の割合」の目標値が60%。今、57.1%で3%誤差の範囲内に入るので。内々でそういう目標を立てるのはいいけれども、外に出すと非常に危険かなと感じていますので、ちょっとそのあたりの使い方は気をつけたほうがいいかなと思います。あと、アンケートの中で、知らなかったとか、時間がなかったとか、私もよくあるのですが、結局、プライオリティが低かったとか、知ろうとしなかったという深層心理があるわけです。それをもって知らなかったから周知しようという、関心のない人に周知するというのは周知できないので、使い方はうまくしたほうがいいかなという感じはしています。

以上です。

○武藤部会長

ありがとうございました。シンクタンクのキャリアのご経験から、こうした統計調査の見方とか欠陥、応用の仕方についてのご配慮をいただきました。

ほかの委員いかがでしょうか。

まず、これ回収率が33%ぐらいでしょうか。それで、この冊子を見ると、前回は46%ほど、その前が34%ぐらいということで、かなり低い調査結果の回収率ということになります。3分の1以下ですね。それは悪いわけではないですけど、このあたり状況で、こうした調査に対する協力意欲も低下をしているのではないかなという感じがいたしました。

それから今、上岡委員がおっしゃっていた、1回30分以上の運動を週に1、2回以上、よく行っているというこの質問、実に多く各市町村なり県で見るとは、健康・スポーツ医学の立場からすると、1回のまとまった運動実施よりは、「1週間で合計60分以上の適度な運動をちゃんと続けていますか」ということのほうが続けやすい習慣ということで、患者さんの指導とか一般市民への健康講座などの講義は、そういう形でお伝えしていることが多いのですが、30分以上でないと適度な運動にならないとなると、ちょっとつらいかもしれないです。最近は集積された運動プログラムも十分に健康習慣につながるという意見が多いので、そんな見方もあることをご理解いただければと思います。

いかがでしょう。

○濱本委員

体育協会の濱本と申します。1回目の全体会に出席できずに、今日、初めての方もいらっしゃると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどのご説明の、健康福祉に関する意識調査の中の51ページですか、図の下に、経年で比較すると、2022年度は2020年度に比べ「継続的に行っている」が約4ポイント増加しているということなので、コロナ禍の中で4ポイント上がったということは、前向きに捉えていい数字ではない

かなと私は思います。

それから、同じ冊子の65ページの区のスポーツ施策、区立のスポーツ施設に望むことという表がございましたけれども、その下の文章の中に、新規スポーツ施設の整備という文言がございます。中野区は、もともとスポーツ施設が人口比に比べて少ないということは前々から指摘されてきて、2019年に新しい総合体育館ができて、これは大変すばらしい施設だなと思っておりますが、そのほかはなかなか場所がない・施設がないということは体育協会の中でも長年議論をして、区にも要望を続けているところではございます。そんな中で、中野区では学校再編が進んでいまして、統廃合で今使っていない校舎、校庭、幾つかございますよね。これを将来的には、それはまた利用計画があるのだろうとは思いますが、元の学校施設がスポーツ施設として何か使えないのかなというのが、私の感想です。これは体育協会としての要望で何度も区にはお伝えしてきたことではございます。

以上です。

○武藤部会長

ありがとうございました。空き校舎といいますか、学校の余裕のあるスペースを市民のための健康増進なりスポーツの振興に活用するというのは、中野区は割と進んでいるほうかなと、資料を見ると考えてございます。もっと広げるのもよからうとは思いますが。ただいまの案は、スポーツ協会・体育協会の立場からも、その点に着目しているというご発言でありました。

ほかはいかがでしょうか。川村委員どうぞ。

○川村委員

こちらの57ページのところなのですけれども、時間がないから運動しないという方が結構多いのですけれども、これからコロナが収まってくると仕事が忙しくなって、時間がない方が多くなるのではないかなと思いますので、これから時間がない人に対して、どうやって運動したらいいかというのを重点的に考えたらいいかと思います。

以上です。

○武藤部会長

ありがとうございました。これもよくある質問と回答ですが、運動・スポーツをまとまった形、ある特定のプログラムをもって運動あるいはスポーツと捉えていると、「時間がないからできなかった」となるのですが、健康運動というのは多様な運動があつていいので、単にこれから中野駅まではしっかり早歩きするとか、あそこの階段を上り下りするとか、日常的な時間の中で運動習慣を定着させるということが、結果として区民全体の運動習慣を向上させることになろうかと思うのです。この質問自体は、運動観・スポーツ観がすごく固定的に捉えているので、答えるほうとしては「やらなかった」、「時間がなかったから」とならざるを得ないなと思います。集積された運動習慣を少しずつ高めましょうということのほうが、リアリティがあるし、有効かなと部会長としては感じています。非常によくある質問項目です。

○野口委員

今の質問で、スポーツを行うか行わないかよりも、最近言われているのは座位行動、座っている時間が長いことへの問題・課題として挙げられているので、例えばまとまった運動はしてなくても、常に立っていてちょこちょこ動いているような人の場合は、もしかしたらそちらのほうが、30分運動しているけどあとの23時間はずっと座っているみたいな人よりはいいと考えられます。最近、座位行動はNGと言われているので、私も今すぐアイデアが出ないのですが、座位行動が長いことに気づいてもらうような質問にするというのはいかがでしょうか。

○武藤部会長

ありがとうございました。

大変重要なお指摘かと思えます。これは子どものWHOの比較検討でも、座位時間が長い国評価が出ておまして、日本としても、子どもたちも大人たちも座っている時間をなるべく減らして、立ったり歩いたりする時間を増やすようにという言い方だと、今日からでも変えられるということですね。大きなボールを椅子代わりに座っていて、ずっと座っているとつらいので立たざるを得ないようにしている財団法人もあります。それがいいかどうかは別としても、座位時間という視点は重要だと感じました。

ほかにいかがでしょう。よろしいでしょうか。

資料2-1の13ページに、介護・高齢者支援課の取組として、歩行姿勢測定システムを用いた指導対応と記載があります。面白いですが、大事なことは、歩いている姿を見て、この方が歩いているところのここがいいとか悪いというのを、指導者あるいは監督者が見守る・気づく力を身につけることが重要なので、ペタペタと歩いている子や、サラリーマンが歩いているときに、「あの人、こんな歩き方するね」ということが分かる力、気づく力、見守るためにこうした測定システムを指導陣のために用いるのが有効なように思います。一般区民がみんなできるかということ、なかなかできないので、そういう生かし方があるのではないかと思います。

ほかはよろしいでしょうか。どうぞ、藤原委員。

○藤原委員

今の第1番目の議題の実施結果についてですけれども、その調査の結果をここで報告するという形ですね。その実施結果は公表されますか。

○中谷福祉推進課長

まだ公表はされていないのですけれども、これから次の議会の厚生委員会で報告をして、その後ホームページ等でアップして周知をしていく予定です。

○藤原委員

区の議会に報告するということですね。

○中谷福祉推進課長

そうです。

○藤原委員

今までの質問の仕方等々のサンプリングの正確性はどうかというのは、オーソライズされているものですか。

○中谷福祉推進課長

今回いただいたご意見はもちろんまだ反映させられません。それについてはこの審議会の議事録として残し、次の計画策定前の調査、3年後ですね。次回実施する際に取り入れていきたいと考えています。

○藤原委員

分かりました。

○武藤部会長

よろしいでしょうか。ほかはいかがでしょう。よろしいですか。また全体が終わったら総合し、フリ

ートーキングの場は設けますので、その際にお願いをします。

続きまして、議題の3、4に入ります。スポーツ・健康づくり推進計画の進捗、それからスポーツ振興施策の2つの議題につきまして、鈴木課長と中村課長、お2人に順番にご説明をお願いします。

○鈴木スポーツ振興課長

それでは、議題の3「令和4年度『中野区スポーツ・健康づくり推進計画』の進捗状況について」、資料3及び資料3-1に基づきご説明いたします。

初めに、資料3をご覧ください。こちらの1番の「趣旨」ですが、進捗状況(1)、(2)につきましては、先ほど中谷課長のほうからご報告申し上げました地域福祉計画と同じ考え方に基づいておりますので、省略させていただきます。

次に、(3)の自己評価の一覧というところになりますけれども、初めに、施策の1「誰でもスポーツ・健康づくり活動に取り組める環境の整備」でございまして、7件の取組がございまして、全ての取組で○の自己評価となっております。

詳細につきましては、資料3-1の3ページをお開きください。先ほどの地域福祉計画の中とも重なっている項目もございまして、まず、こちらのほうの主な取組といたしましては、「魅力あるスポーツ・健康づくり事業の提供」といったことと、「障害者スポーツの推進」などとしておりまして、令和4年度の取組状況と今後の課題につきましてはご覧のとおりとなっております。今後の課題につきましては、次の議題の4の際に詳しくご説明いたします。

次に、同じく資料3-1の5ページをお開きください。施策の2「スポーツ・健康づくり活動を通じたコミュニティの形成」でございまして、

3件の取組がございまして、「会員により自主的、自立的に運営される地域スポーツクラブの育成」や「地域スポーツクラブを中心としたコミュニティ形成の推進」、それから3つ目の黒い四角ですけれども「多世代、多種目、多志向に対応したスポーツ・健康づくり活動の機会の提供」がございまして、これら全ての取組におきましては、令和4年度の取組状況、自己評価の欄にございまして、自己評価を○としております。

次に資料3-1、次の6ページをご覧ください。こちらは、本日お配りした正誤表にもございましたとおり、2022年度の実績のところ、誤りがございまして訂正をさせていただきます。2022年度の実績なのですけれども、小学校6年生が「13/16項目」とありますが、これは「11/16」の誤りですので、「13」を「11」に訂正していただければと思います。また、その下の中学校3年生、「15/17項目」とありますが、こちらは「12/18項目」。18項目中の12となっておりますので、「12」と「18」に訂正をしていただければと思います。

こちらなのですけれども、「子どもの運動習慣の定着・体力向上に向けた取組の推進」でございまして、6件の取組がございまして、このうち1件の取組につきまして、一部実施ができなかったということで△の評価としております。7ページが一番上にございまして、こちらは、「小学校の体育の授業において、保健体育科教員を志望する学生に補助員として参加してもらうなど、運動を身近なものとする取組を進めます」といったことで、自己評価の欄ですが、学校では、児童・生徒の実態に応じて、朝や休み時間、放課後に外遊びやスポーツ教室の機会を設け、運動時間の確保に取り組んでいるということで、運動を身近なものとする取組といったところはできているということになりますが、やはり新型コロナウイルスの影響によりまして、学生を補助員として参加させることができなかったというところで一部できなかった項目があるという理由で△としております。

続いて8ページをお開きください。施策の4「区内スポーツ団体等との連携、支援」でございまして、全部で8件の取組がありまして、主なものとしましては、「一般社団法人中野区体育協会との連携、支援」、また「中野区スポーツ推進委員との連携、支援」、右側のページに行っていただいて2段目になりますけれども、「区内大学等との連携」、それから「スポーツを核とした関係者や団体間の連携」といった項目がございまして、こちらも全ての取組で自己評価は○といったことで、予定

どおり実施できたといった自己評価となっております。

以上が、施策1から4までの進捗状況の報告になります。

施策の5、6、7につきましては、健康づくりに関する取組になりますので、保健企画課長よりご報告いたします。

○中村保健企画課長

保健企画課長の中村です。よろしくお願いいたします。

資料3にあります施策5、一番下のところをご覧くださいと思います。「健康的な生活習慣の定着支援」ということで、取組数としては4つございました。3-1の資料でいいますと、10ページになります。

こちらは、主な取組ということで「精神保健相談」、「地域健康活動支援」、「健康づくり支援」、それから「熱中症対策の普及啓発」ということで取り組んでまいりました。いずれも自己評価としては○ということで、今後の課題について、項目それぞれ書いてございますけれども、「精神保健相談」については、情報提供とか支援関係者の連携を進めるというのが今後の課題です。

2つ目の「地域健康活動支援」につきましても、情報発信の方法を検討していくというのが今後の課題として記載してございます。

それから3つ目、「健康づくり支援」ですけれども、他の自治体とか事業者から聞き取りを行いまして、取組内容を検討するとか、健康づくりを推進する会というのがあったのですが、そういった会の在り方について方向性を決めるというのが今後の課題です。

11ページをお開きいただいて、「熱中症対策の普及啓発」につきましては、新型コロナウイルス感染症の類型が5月8日から変わりましたが、感染予防と熱中症予防、両方に配慮できる効果的な情報発信について検討していくというのが、今後の課題です。

次に資料3、裏面をご覧くださいまして、施策6になります。「データ分析や健診等による健康づくりの支援」になります。資料3-1でいいますと12ページからになります。こちら取組数としては7ございまして、いずれも自己評価としては○ということになってございます。

主な取組、1つ目の「生活習慣病予防対策事業」ですけれども、糖尿病予防のために、運動習慣でしたり生活習慣を改善できるように支援するというものですが、今後の課題といたしましては、この事業の参加者がより増えるよう、事業の普及啓発を図っていくとか、自主的な改善行動に結びつかない糖尿病予備軍に対するアプローチを検討するということが挙げられてございます。

次の取組が、「受動喫煙防止対策事業・禁煙外来治療費助成事業」です。こういったものを区で行っています。1つ目が受動喫煙防止ですけれども、今後の課題といたしましては、引き続き普及活動を行っていくとか、飲食店等に対して指導訪問を行っていくところが引き続きの課題となっております。

それから、禁煙外来治療費助成というのをやっているのですが、これは今、禁煙の治療薬が、出荷がちょっと見合わせといいますか中止になっておりまして、薬剤が手に入らない状態があります。禁煙、ニコチンパッチも入手困難という状態があって、なかなか禁煙治療というのはそんな状況があるのですけれども、今後の課題といたしましては、禁煙治療薬の出荷状況を注視して、出荷再開のときは改めて広くこういった制度を広めていただけるように周知を行っていくというのが課題となっております。

13ページにお移りいただきまして、「データヘルス事業」です。生活の質の向上とか健康寿命の延伸及び医療費の適正化のためにデータを活用して、いろいろ、早期発見・治療、それから重症化予防という取組を行うものなのですけれども、これ自己評価は○ですけれども、より受診行動につながる勧奨の方法とか、効果的な保健指導について引き続き検討を行うということが課題でございます。

次の項目は、「がん等検診の実施及び受診勧奨事業の実施」です。1つ目が、がん等健診を実施していくという項目なのですけれども、今後の課題といたしましては、新型コロナウイルス感染症

の影響で受診者の受診控えというのが一時期あったのですが、それを回復していくために受診される勧奨方法について検討していくというのが今後の課題です。

それから、この項目の2つ目、受診勧奨。パーソナルヘルスレコードの活用を推進して、一人一人の健康増進や生活改善につなげていくというものですけれども、今後の課題といたしましては、1つ上の項目と同じように、実際にコロナ前のように参加をいただくような勧奨方法を検討していくというのが今後の課題です。

それから、13ページの一番下ですけど、「客観的データに基づく運動機能向上の推進」ということで、区立スポーツ施設の利用者とかデータを利用して運動機能を高める取組を推進していくというものなのですが、今後の課題としては、体力測定の結果を個人に活用してもらおうとともに、区としての活用方法などを検討していくのが課題になってございます。

次に、施策の7「食育の推進」です。資料3-1でいいますと14ページになりますけれども、取組数が16ありまして、いずれも自己評価としては○とさせていただいているものでございます。

主な取組を順にご説明いたします。まず、「各ライフステージに合わせた食育の推進と食生活支援」ということで、取組内容の1つ目、妊娠期からの口腔ケアや健全な食生活の確立を目指す講習会とか栄養相談体制を充実させ、安心して健康的な出産に向けた支援を行うというものです。今後の課題としましては、妊娠初期からの講習会参加を推奨していきます。令和5年度から講習会を20分拡大して内容の充実を図る方向で準備をしているところでございます。

2つ目、乳幼児健診の月齢に応じた食習慣支援、離乳食や食育等の講習会の実施、家庭における食育を推進ということですが、今後の課題といたしましては、離乳食・歯みがきスタート講座、離乳食講習会、食育講習会を継続して実施し、区民の需要に応じた完了期コースも新たに実施するというのが今後の課題です。

3つ目、保育施設・幼稚園等の給食、行事食等、食に関わる体験を通じ、食に対する興味や関心を高める取組ですとか、小・中学校で食に関する指導など、教科や学校行事の中で食育を位置づけて推進するというものなのですが、今後の課題といたしましては、保育園・幼稚園、幼児期については、新型コロナウイルスの影響で、会話をしながら楽しく食事をするのが少なくなっている状況がありますので、今後、以前のように給食を楽しみにできる取組を計画的に実施するのが課題です。それから、小・中学校のほうです。新型コロナウイルス感染症拡大の状況下では、なかなかできることが少なく限られていたところではありますけれども、今後、実際に野菜の皮むきや畑の見学とか、スポーツと栄養に関するゲストティーチャーをお呼びしたりとか、実体験を伴った食育を計画的に実施していくというのが、今後の課題です。

これ以降の取組内容につきましては、今後の課題ですとかそういったものは、一番右の欄に記載してございますので、後の部分にお読み取りいただければと思います。よろしく願いいたします。

○武藤部会長

重要なところを皆さんで点検しながら意見交換の時間をたくさんとりたいと思っております。ただいまのご説明、鈴木課長のほうから続くということですのでいいですね。

○鈴木スポーツ振興課長

はい。議題の4「区のスポーツ振興施策について」ご説明をいたします。

資料4をご覧ください。資料4-1は参考としてご覧いただければと思います。

まず、資料4の1や2といったところは、皆さん重々ご承知かと思っておりますので割愛させていただきます。審議会や結論・目的ですとか取り組んでいただくこと、また実際に取り組んでいただくことというのは、ここに書いてあるとおりですので、お読み取りいただければと思います。

では、資料4、2ページをご覧ください。先ほど来出てきております、区のスポーツ振興施策について、「誰でもスポーツ・健康づくり活動に取り組める環境の整備」ということで、成果指標、先ほ

どからご議論いただいているところですが、成果指標を上げていくためにどういったことを行っているのかといったことは、主な取組の①から④までございます。「魅力あるスポーツ・健康づくりの提供」であるとか、「障害者スポーツの推進」、あと「オリ・パラのレガシーを活用した気運の醸成」、また、「安全・安心にスポーツに取り組める環境の整備」といった取組を進めているところです。

3ページをご覧ください。「現状と課題」についてです。先ほどの成果指標で57.1%が「1日30分以上の連続した運動を週1、2回行っている」とお答えいただいているのですが、まずこのグラフをご覧くださいと思うのですが、30歳代以下の数値が低く、その後は上昇していきませんが、70歳代から数値が下がっている現状がございます。環境や生活の変化が多くなりがちな20歳代、30歳代以下の世代と、体力衰退が想定される70歳以上への取組、どういったことをアプローチしていけばいいのかといったことが課題として挙げられると思います。

2番目のグラフにつきましては、先ほどからもご議論いただいておりますので、「時間がない」、「機会がない」といった方が多いということなのですが、一番下の「時間がない」、「機会がない」を年代別に見ますと、20歳代とか30歳代、40、50、60歳代ぐらいまでが、「時間がないからやっていない」といった方が多いということです。また、「機会がない」といったのも50歳代からはかなり多くを占めてきて、70歳代の方には、逆に、時間はなくはないといえますか逆転をしております、時間はそれほどないと言っている方は多くないのですが、逆に「機会がない」方が多いといった課題と捉えております。

では、続いて、資料4の4ページをご覧ください。「スポーツ・健康づくり活動を通じたコミュニティの形成」といったことで、成果指標は、「スポーツ活動をする団体数」となっておりまして、2020年度は2,929団体、2022年度は2,968団体、目標としては2025年度までに3,250団体まで増やしたいといった目標がございます。

主な取組といたしましては、やはりそういった団体の方が自主的、自立的に活動をして、地域スポーツクラブの運営にも携わっていただいて、地域スポーツクラブの運営が、会員の団体ですから、皆様でぜひ自主的、自立的に運営されていくことが、主な取組として掲げられております。そこに集う方々を中心として、スポーツを通じてコミュニティ形成をしていただくみたいなことですか、やはり地域スポーツクラブの目的であります多世代、いろいろな年代の方がいろいろな種目、自分がやりたい種目、それから自分のレベルに応じて、競技的な思考の方もいらっしゃるれば初級者的な志向の方もいらっしゃるということで、そういった方々に合わせて様々なスポーツ・運動ができる機会を提供していくといったところです。

その下の、現状と課題なのですが、今、地域スポーツクラブとはこういうものだというご説明をさせていただいたので、その下、「現在、中野区では」といったところです。地域スポーツクラブの取組を行っているのですが、主な課題としては、自主性、主体性のところにつきましては、今、中野区としては、ちょっと形態が他の自治体の組織と異なっているところがありまして、指定管理者が事務局として事業運営の大部分を担っている現状がございます。あと、参加のハードルといった面では、やはり仲間同士で団体をつくってその活動を行っているので、なかなかそこに新規の方とか、誰もが容易に参加できる状態ではない現状がございます。また、活動場所の拡大といった課題がありまして、先ほど、濱本委員からもご指摘ありましたけれども、活動する場所、地域スポーツクラブといったものが区内に3か所と総合体育館で1か所ありまして、また、屋外スポーツ施設はあるにはあるのですが、種目が限られていたりということで、やはり面積が狭いといった課題もあるので、こういった活動場所をどう拡大していくか、確保していくかといった課題もございます。

それから5ページをお開きいただいて、正誤表で訂正をさせていただいた数値になりますけれども、「子どもの運動習慣の定着・体力向上に向けた取組」といたしまして、「遊びを中心とした身体活動による運動習慣の定着」であるとか、「学校運動部活動の活性化」といった取組を進めているところですが、今現在、区立スポーツ施設の空き時間に一部、一般開放を行っている現状もあります。また、遊び場開放といまして、放課後の校庭とか体育館を遊び場開放していると

ころです。また、令和4年度から民間事業者と連携してプロ選手等による指導イベントというのを実施しておりますが、今後、この地域スポーツクラブとか学校と連携強化をして、子どもたちに対する指導ですとか支援といった取組を推進していく必要があると考えております。

続いて、6ページをお開きください。「区内スポーツ団体等との連携、支援」になっておりまして、この成果指標が、「スポーツを支える活動に関わった区民の割合」で、2020年度は15%ありましたが、2022年度は10.8%ということで、4.2ポイント減少してしまっております。

主な取組としては、こちらに書いてあるとおりになっているのですが、この指標につきましては7ページをご覧ください。この指標の取り方といたしましては、このグラフにありますとおり、スポーツ選手・チームの応援をしたですとか、子どもとか部活動の運営や支援を行ったとか、あと、成人のスポーツ団体の運営や支援を行ったとか、また、ボランティアをしたといったことで、スポーツを「する」とか「見る」のほかに「支える」活動をした人といった指標をとっていますが、やはりコロナ禍でプロスポーツの観戦が制限されていたといったこともございますし、まだまだコロナ前に戻っていないこともあろうかと思えます。

また、この指標の在り方といたしまして、団体に所属、活動している時点でスポーツ振興へ貢献していることでも捉えられると思えますので、指標項目も少し見直すとか質問の内容、ちょっと項目を変えるとといったようなことも検討していく必要があるのではないかとということが課題として挙げられております。

資料4の説明は以上になりますが、皆様にやはり現状と今の課題、今後の方向性といったところで、どのように計画に取組を盛り込んでいくかといったことをご意見いただければと思っております。

長くなりましたが以上です。ありがとうございます。

○武藤部会長

スポーツ・健康づくり推進計画の進捗、そしてスポーツ振興施策について、続いて説明をいただきました。何かご発言、質問、確認したい点、提案などございましたらどうぞ。

○櫻井委員

スポーツ活動する団体数が2,968団体ということで、多いのか少ないのかちょっとよく分からないのですが、資料の4-1に書いてあるようなところが主にということで、中野も申請はできるのですが、ちょっとハードルがあって、認める、認めないとかがあるわけですか。

○鈴木スポーツ振興課長

資料4-1をご覧ください。と思えますけれども、体育協会に加盟している団体というのは、こちらにありますとおり33団体ありまして、例えば軟式野球連盟ですと、その傘下にそれぞれ軟式野球チームがございます。そこに、例えば友人を通じて参加することは可能だと思いますし、あとは、自分たち仲間同士でチームをつくって小学校の校庭を使いたい、体育館を使いたいといったことで、右下にあります小学校の開放を利用している団体とか中学校の開放を利用している団体とか、また、スポーツ・コミュニティプラザとか総合体育館に登録して、そちらを利用している団体といったことで、ご自身たちで団体を通していろいろな施設を使っただくことは可能なので、ハードルがそこまで高く入れないといった状況ではないと考えております。

○武藤部会長

中野区に在住もしくは職場がある自由なグループ・団体・組織なら登録可能ということですよ。ほかの自治体と同じですよ。

○鈴木スポーツ振興課長

はい。在住・在勤、もしくは、例えば在住の方がいなくても一般団体として、少し予約できる枠とか時期が遅れるのですけれども、優先順位は下がりますけど、そういった団体の方も登録はできます。

○武藤部会長

ほかにいかがでしょうか。藤原委員、どうぞ。

○藤原委員

資料3の13ページのナッジ理論というものの自体がちょっと分からないのですが、この理論から受診する人が多くなるということなのですか。

○中村保健企画課長

ナッジ理論は、心理学の領域の言葉だと思うのですが、何かを見せる、置いておく、何かを示すことによって、思わずそういった行動に結びついてしまうというものをナッジ理論と言われていたそうです。なので、健康にいいことをしましょうと直接言うのではなく、何かそういった仕掛けをして、例えば「受診をしましょう」と直接言うのではなく、思わず受診するような仕掛けをするというものでございます。

○野口委員

そうすると、今回はどのような仕掛けをされたということなのですか。

○藤原委員

自己評価でできたと書いてあるのですが、どういうふうにやったのですか。

○中村保健企画課長

広報の仕方とか工夫しましたし、例えば検診車が来ると広く一般に言うのではなくて、「この近くにいついつ検診車が来ます」と示したりして、そのときにちょっと行ってみようかなと思っていただいたりするような仕掛けとか、いろいろ工夫をしてみました。

○上岡委員

ナッジ理論の確認なのですが、八王子市のがん検診は結構有名ですよ。検査キットを送っていたのですが、コストが馬鹿にならないので、検査キットを送って、それを受診しないと次は送られませんよという案内をしていたら、結構損をするという心理が働いて受診率が上がったというのですが、八王子市がやったのとは違うのですか。

○中村保健企画課長

そこまではしていません。今、そういったお話もいただきましたので、今後参考にしてまいりたいと思います。ありがとうございました。

○藤原委員

これは取組をやって自己評価○になっていますけど、○ではないのではないですか。結局、受診者は増えたのですか。ナッジ理論を使って増やそうという取組に対して、実際、前のときよりも増えたのであれば○でしょうし、マイナポータルでできるようになったというのは、ナッジ理論と関係するのですか。

○中村保健企画課長

マイナポータルは、国の仕組みの中で、マイナポータルで見られるようにするというのは国全体

でやっていることですので、各自治体で同じようにやっているものです。

それで、新型コロナウイルス感染症の拡大で、検診の受診者がかなり落ち込み、コロナ前にできるだけ近づけようとして、受診者数の回復が見られましたので○とさせていただきます。

○藤原委員

ここの取組としては、がんの早期発見のために、がんがあるかどうかの受診を勧めていきましようという施策ですよね。それは、コロナの影響もあってうまくいかなかったということではないのですか。うまくいかないから、今度はナッジ理論なり何なりを使って、5年、10年前よりも増やしていきましようという取組が取組案であって、この自己評価○というのは承服しかねます。

○中村保健企画課長

令和4年度に関しましては、例えば令和2年度、3年度から大きく落ち込んだことがありますので、まずはコロナ前に戻そうというのが担当としての目標でした。そういったところは実現できましたので、自己評価としては○とさせていただきます。新型コロナで大きく落ち込んだところを、これまでにないほど、コロナ前に受診されていた人数を超えて、そこまでの受診拡大というのは、いろいろ一気にやるのは難しいところもありますので、これはあくまで令和4年度の実績ですので、今後につきましては、早期発見、早期治療とかいったものは、健康寿命の延伸とか適正化とかいろいろ、区の目指す方向に近づけるのは必要なことですので、また令和5年度以降、今後、コロナ前に比べても増やしていこうという気持ちもあります。

○武藤部会長

所管による自己評価という制約条件がありまして、本当は第三者評価をこうした事業評価の場合には用いるべきだとは思いますが、これだけの多数の部署の評価を第三者評価にするというのは多分現実的でないので、自己評価という観点で、○、△、×とされているのだと思います。その自己評価が甘いか辛いかは、それぞれまた自己評価をしてもらったほうがいいかなという感じはするのですが、それが根源的に大きな課題としてはあるように思います。

新型コロナウイルス感染症の影響でさらに落ち込むだろうと思っていたものを、まあ少し回復させたというところをもって自己評価を○にされたのだろうと理解しています。また、新しい理論なり専門領域の言葉も、審査には脚注で必ず説明を付しておいたほうが親切なように思いました。

○野口委員

皆さんの今の意見で、資料2とか3も同じなのですから、自己評価の○とか△をつけるときの何か目安みたいのがあると、皆さんも納得しやすいのかなと思います。例えば、資料4は、評価指標というのが書いてあるではないですか。この評価指標というのがあれば、例えば施策2の場合、団体数を評価指標としているとか、次のページだったら7割以上の児童が達成した項目数とか、誰が見ても分かるような評価指標というものと一緒に書くわけにはいかないのですか。そうすると、今のような話にはならないのではないのかなという気がしました。全部に評価指標をつけること自体、現実的なのかどうかは別として、大項目のところだけでも、こうなったら一応いいだろうと○をつけるとしておいたほうがいいのかなとちょっと感じたのですが、どうでしょうか。

○武藤部会長

評価法の評価の議論が白熱しています。取りあえず話題を変えましょう。どうぞ。

○阿部委員

食育のところで質問なのですが、区のほうで全て子どもから高齢者までのライフステージ

に合わせてとか、高齢者が食を通じた健康づくりに取り組めるように講習会をとというのが、資料2-1の12ページとか資料3-1の15ページに書いてあるのですけれども、実際に高齢者の食育というのはどこでやっているのですか。私たち中野区フリー活動栄養士会は、区の仕事もお手伝いしたりとかいろいろなところでやっているのですが、すこやかでやっているというのは、基本的には母子事業が中心だと思うのです。高齢者の食育に関しては、高齢者会館で確かにやってはいるのですけれども、これをすこやかがやっているのかなとちょっと思ってしまいます、すこやか福祉センターと書いてあるから。でも、すこやかでは高齢者の食育は全然やっていないと思うのです。

それと、高齢者会館の利用のところにも、「あまり使用していない」とか「全く」というのが今回の結果ですごく落ちているというのがありましたけれども、高齢者会館で私たちが講座をやっているのは、まず、高齢者会館というネーミングが悪いのではないかなと思うのです。新宿区なのですから、新宿区はシニア活動館という名前で、年齢制限ももっと低いのです。そうすると、たくさんの方が結構来ているというのと、それから、高齢者会館は同じ人が来てしまっているというのとはすごく実際のところで、参加してみたらきっといいのだろうなと思うのだけれども、それがみんなに認知できていないのかなというのもちよっと感じたのです。

食育に関しては、話がちょっとずれてしまうかもしれないのですが、私、この審議会で話を聞いていて、ここはスポーツ・健康づくり部会でスポーツの話がほとんどではないですか。今日の話も。でも、健康な体をつくってきちんと食べることが大切だということを伝えていかなければいけないのに、それがどこに入っているのかな、そこをどういうふうにチェックしているのかなというのすごく不思議でした。

あと、私たちのフリー活動栄養士会はこういうことをやっていますから、それを登録してくださいと区のほうから言われているのです。登録してあるのですけど、その評価を早く出してほしいと言われているのも正直なところ。その評価の仕方というの、私たち、コロナ禍でこんなにできないけれどもというので、出すのもすごく迷ったりすることもあって。何か食に関してすごくおざなりだなというのをものすごく感じているのです。もう少し健康づくりというところであれば、食の大切さをきちんと伝えていって、それから、きちんとこの部署がどういう年齢層に対応しているよとか、そういうのもすごく大切なのではないかなと感じました。

○武藤部会長

ありがとうございました。このスポーツ・健康づくりの委員会に、管理栄養士の委員が7名中2名いらっしゃるのです。その組織づくりの点で、既に栄養・食のことについて重点的に捉えていると、私は最初の名簿を見せていただいて思っています。たまたま今日は、スポーツに関する資料が多かったのですがその話題にはなっていますが、運動・栄養のことも多数質問項目の中に入っています。したがって、軽視していると私は思いません。ですから、阿部委員がさらに活発にご議論、発言をしていただければ、区を代表した重要な会議になると私は期待をしております。

○中村保健企画課長

保健企画課長です。次回の部会、7月11日の部会のときに、食育についてはご意見をいただきたいと思っております。

それから、食育に対してですが、これまでは食育の取りまとめはどこがやるのかというのを、実は区の中でもなかなかはっきりしていなかったところがありました。昨年度、調整いたしまして、食育に関するものの取りまとめは、中野区としては保健企画課で取りまとめを行うということになりましたので、今後、各部署との調整も含め、保健企画課のほうで対応させていただきます。

ただ、それぞれのところで行っている、すこやかとか教育委員会とか幼稚園とか保育園とかでやっていることは、それはそれでやっていきますけれども、今年度はライフステージごとに合わせた講演会なども実施していく予定です。隙間のないようにといいますが、誰一人取り残さないというの

が中野区の方針ですので、そういった方向でいろいろと進めてまいりたいと考えております。

○武藤部会長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○上岡委員

拝見させていただいて思ったのですが、非常に多くの施策をやられて、少ない人数で頑張っているなという感じがしています。

やはりしっかりやっていることをちゃんと広くアピールする、正確に伝えることが大事かなと思っていて、1つはこのまとめ方で、今後の課題というところが多分一番重要かなと思っていて、見ると、課題ではなくて今後の方針とか、それがごっちゃになって、何が言いたいのかよく分からないです。課題と今後の方針がごっちゃになっているので、あとは、分かりやすくしていただくと、広く発表するときはブラッシュアップしていただけたほうがいいかなと思っているのです。よく見ると、課題がほとんど書かれていないのではないかなという感じがして。多分、あると思うのですが、うまく丸めて出さないようにしているのかもしれないですけど、そういう工夫がされているのかなと感じるので、ちょっと分かりやすくしてほしいなど、私の意見です。

以上です。

○武藤部会長

ありがとうございました。課題を提示して、それをどのように解決するかという道筋のヒントみたいなことが述べられるとよいのではないかなというお話でありました。

竹之内委員いかがでしょう。

○竹之内委員

学校の立場というところも含めてになりますけれども、今日、聞かせていただく中で、根本的なところで、980人の有効回収数の中で、どのぐらい世代別の人数が集まっているのかな。20代以下が何人なのか、30代何人なのか、そんなところもある程度我々知っておく必要があるのかなと考えています。980人で100人ずつぐらいは本当にいるのかみたいなのところも踏まえて、パーセンテージの意味合いがどうなのかなと感じました。

また、体力調査の結果、正誤表もいただいたところですが、具体的に達成しなかった項目がどんどん少なくなっているのですけれども、少ないながらも毎年同じ項目が、実は届いていないことに対して、どうアプローチをしていくのかということがこれから議論されていくと非常にいいかなと思っています。実はこれ、学校教育の場で行っている体力テストの結果から出しているものなのですけれども、そこにどのような形でアプローチを、いわゆる教育委員会と健康福祉部とがどのように連携していけるのか、非常に楽しみにしています。

それから、アンケートについても様々、定義が人それぞれ違うのかなというのもあって、健康という言葉をどのように各自が定義を理解して答えているのか。WHOが言っている「健康」をちゃんと理解している人が本当にやっているのか。心も健康でないと健康でないみたいなのところもありますので。また、そういった調査の部分においても、課題を1つ1つやっていく必要があるのかなと感じていました。

また、運動部活動が、文化部活動も含めてですけれども、地域移行されていくのについては非常に期待をしております。やはり子どもの数が少なくなっていけば、運動部活動でチームスポーツが成り立たなくなっていくと思います。さらには、本校と緑野中にしか既に公立中学校で陸上競技部がないという現状があります。そういう中で、しかも指導者がいないというところで、非常にこれから期待をしているわけなのです。

やはり、先ほどの食育も含めて、全てにおいて教育、いわゆる小・中学生の教育が原点になり、

そこから価値観であるとか、様々な自分自身への必要な部分を感じていけると思っていますので、そういったものをうまくつなげていくことが、これからの健康福祉につながっていくのではないかなと考えます。

今日もたまたまですけれども、土曜日に雨で流れた運動会をやってきたのですが、子どもたちは本当に、得意な子も苦手な子も一生懸命やります。確かに苦手な子なのだなと思います。でも、一生懸命やったあとは笑顔です。やはり運動の喜びというのは、子どものときにとっても感じているので、それを何とか継続させていくための様々な仕組みがこれから必要なのかなと考えています。食育ともしっかり関わり合いながら、先ほど歯のことについてもありましたけれども、8020運動などもあります。やはり自分の歯で食べ物を食べる、さらには口の中から病原菌のほとんどが入ってきますので、口の中の健康はとても大事です。歯の健康診断よりも、やはり定期的に歯を診てもらおうようなところにつなげていくとかも含めながら、中野区独自のアプリか何かつくって、それこそ企業との連携などという言葉もありましたので、その四季の森公園には立派な大きな企業もありますから、ポイントが貯まると飲料水がコンビニからもらえるですとか、そういうものなどにもつなげていくと、とても面白いかなと思います。

どんなことが具体的に予算化されていくのかということもありますが、実際に、本校においても、水曜日に職員会議をやっている裏でゆる部活のようなものやっていて、着替えなくてもいいから運動したいという子を集めて、大学生を呼んで一緒にやっています。ですので、これまでも運動部活動や様々な部活動、テニス、野球、バスケットボール、9校の子どもたちで、あるいは都立も私立もあります。その子どもたちを集めて、そこにスポーツ振興課のほうからアスリートを呼んでいただいて、子どもたちがよりスポーツ志向を高める、そんな取組もやってまいりましたので、これからいろいろなことがやっていけると思っていますので、この機会をぜひ生かしていただけたらなと思っています。

以上です。

○武藤部会長

ありがとうございます。教育という観点、学校という観点、運動・スポーツ、幅広くということで、先ほども運動とスポーツの捉え方のところで議論があったと思うのですが、身体表現活動、これはまさしく身体運動なのです。例えば踊り、ダンス、バレエ、演劇、それからコーラスなども身体活動を伴うプロセッションが多々あります。スポーツだけをという捉え方ではなくて、身体表現活動も含めた多様な身体活動を高めるといふ形のほうが、恐らく幅広く区民が参画できるのではないかなと思っています。

私は、新国立劇場のバレエ団の医療支援のお手伝いもしているのですが、今、全国でいうと、柔道をやっている子どもよりもバレエをやっている子どものほうが多いのです。身体表現活動に関心が高い男子も女子もたくさんいて、中野区として、あまり競技スポーツだけにとらわれずに、身体表現活動という観点に合わせて生活活動、日常生活における活動も体を動かしていくこととなりますので、身体活動という捉え方が重要ではないかと思いました。

それから、これは根源的なところですが、資料4の1ページ目に、区のスポーツ振興施策というのがありまして、先ほどの阿部委員のご指摘にも通ずるのですが、健康とスポーツを混在して議論すると、先ほどのようなことは当然起き得るのです。これはスポーツ審議会ではないのです。この健康福祉審議会で、無理無理スポーツを持ってきていて、健康づくりに資するスポーツを議論しようとしているのですが、間違っただけではないですけど正しくはない。つまり、スポーツはもっと多様で、競技スポーツもあれば学校体育のスポーツもあればリハビリテーションとしてのスポーツもあればということで、極めて多様です。その多様なスポーツを、ここでは健康づくりに合体した形でスポーツを論ずるので、限定的にならざるを得ない。そうすると、もっと健康のことを議論したいと思っておられる委員がいらっしやると、それはちょっと違うのではないかなと感じることは当たり前です。根源的に、この審議会の部会の持ち方がそうなっているからです。ほかの自治体に行きますと、大体ス

スポーツ審議会です。スポーツ審議会とパラスポーツも含めて多様なスポーツのことについて議論して、例えばスポーツファーマシストについても、スポーツデンティストについても議論をする。それは、幅広さが出るんですけども、ここは健康づくりに特化したスポーツを議論しているから、どうしても限定的にならざるを得ないし、せめぎ合いが生じると私は感じています。

あと、阿部委員がさっきおっしゃっていた、高齢者会館の名前を変えようという話。実は先月、私は長野県の自治体の高齢者センターの名前を変えるための委員長をやっているのですが、予算は高齢者センターで通っても、センターができてしまったけど、やはり市民からは、「高齢者センターという名前だと利用しづらいよね」と。「もうちょっとなんか名前変えませんか」みたいな、そういう議論を始めているのです。中野区もスマートで、皆が利用しやすいような雰囲気をつくるためにも、ネーミングが大事なように感じました。

ほかの委員、どうぞ。

○野口委員

それでふと思ったのは、私、豊島区の大学に勤めておりますが、豊島区に今、としまる体操というのがあって、どこの公民館のようなところでも全てでとしまる体操をやっていて、豊島区民はみんなとしまる体操を知っていてやっているというのがあるのです。だから、例えば中野区でも中野体操とか、分からないですが、中野音頭とか盆踊りみたいなものとか、何かそういうことは、特に年齢の高い方には体を動かすきっかけになったりはしませんか。

○鈴木スポーツ振興課長

それについてお答えします。中野で、元気アップ体操というのがありますが、恐らく周知が足りないのだと思っております。高齢者会館とかの介護予防運動とか、そういった場面でやっていたらいいということなのですが、ちょっと皆さん、まだご存じない方が多いのかなと思います。

○野口委員

分かりました。

○武藤部会長

これは部会長ではなくて個人の研究者として、やめたほうがいいと思います。たくさん市のつくった体操を見て、聞いて、審査したりしていますけど、市長が代わったのでつくったところもあるのですが、ラジオ体操に勝る体操はないと私は思っています。実によくできていて、第1、第2体操をやれば、十分に健康体操として成立しています。私はこの審議会の会長をお引き受けする最初の段階でたしか、中野でラジオ体操を普及しましょうということを申し上げて、幾つかは続いたと思うのですが、全国的にも何とか体操は成功した事例はあんまりなくて、時間と予算だけ使って市民にあまり普及せず、やっているのはつくった人だけみたいな。もちろん普及しているものもありましたが、時間と労力がちょっともったいないかな。それよりもラジオ体操とか、太極拳ほどのリズム体操とか、いろいろなよいものがありますので、それを使っていたらいいように個人的には思います。これは部会長としての発言ではありません。

ありがとうございました。否定的なことを言っているわけではなくて。

○阿部委員

中野は、うさごはんのダンスもありましたよね。

○藤原委員

朝、中野区内の公園に集まって、ラジオ体操の音楽を流しているところを見かけました。最近行

ってないので分からないのですが、あれは中野区の予算でやっているのですか。有志が単に持ってきてかけているだけですか。

○鈴木スポーツ振興課長

自主的な取組かもしれませんし、ラジオ体操連盟がございますのでラジオ体操連盟の活動かもしれません。もちろん、町会単位でやっていきましょうというところもありますし、恐らく自主的な取組になるのではないかなと思います。

○藤原委員

それを中野区が、公園でみんな集まるようなところで毎朝やるよという施策とか、いいのではないのでしょうか。

○武藤部会長

ありがとうございます。竹之内委員、どうぞ。

○竹之内委員

関連しまして、学校とラジオ体操の関係というのは、非常に歴史的にも長いものがあります。中野区には、多胡肇先生というNHKの体操の元お兄さんがいらっしゃいまして、公立小・中学校でかなりゲストティーチャーとしても活躍してくださっています。いわゆる、きれいなラジオ体操は健康につながっていくということで、かなりの小学生が身につけながら中学校に上がっていきます。中学校ではほとんどの学校が、ラジオ体操をしっかりと身につけようということで、今日も運動会のスタートの準備運動ではラジオ体操をやっています。

また、ラジオ体操を、地域のつながりにということで、本校で取り組んでいるのは、各町会が夏休みに子どもたちを集めて、公園で、先ほどおっしゃったような自主的な活動でラジオ体操会をやり、そこに中学生がボランティアとして参加します。そして、子どもたちと一緒にラジオ体操をやったり、スタンプを押してあげたり、あるいは行き帰りを一緒に安全確認してあげたりということもやっています。ですので、ラジオ体操は、かなり区内でも小・中学生には普及をしているかなという実感があります。ですので、元気アップ体操として否定はいたしません、ラジオ体操は非常に普及しているところを、ぜひお伝えしたいと思ってこのような発言をさせていただきました。

○武藤部会長

ありがとうございます。身体文化の日本を代表する1つだと思います。もともと健康づくりのために保険会社が始めたものを、日本の郵政省が普及した歴史があります。

いろいろご議論ありがとうございました。先ほど、本日の資料で鈴木課長からご紹介のあった、毎日新聞の子ども体力低下の件とかスクールトレーナーの件は、これは私どもの公益財団法人運動器の健康・日本協会が今、来年度から本格的に全国展開しようとしておりまして、そのご紹介の資料ですので後ほどご覧いただければと思います。スクールカウンセラーが子どもたちの心のケア、理学療法士が整形外科医とタイアップして学校に行き、体のケアをしようとするものです。運動不足、体力不足、非常に目立ってきておりますので、そういう取組をということで中野区教育委員会とも今、協議をしております、秋頃から順番に進められないかということ準備中でございます。

それでは、しっかり議論をいただきましたので、ありがとうございます。

今日の議題は4点です。何か皆さんに情報提供がありましたら、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

今日はしっかりたくさん議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

次回は、7月11日火曜日の19時からということで、またお会いしたいと思います。どうぞよろしく

お願いします。ありがとうございました。

○鈴木スポーツ振興課長

駐車券にスタンプを押させていただきますので、もしご入用の方は、事務局までお渡しいただければ押させていただきます。よろしくをお願いします。

ありがとうございました。

——了——